KOBELCO 神戸製鋼グループ | 神鋼造機株式会社

自動車用トランス・ミッション主体に受託試験事業に着手し、専用設備『試験機テクニカルセンター』を開設しました。

試験状況はWebカメラの使用で机上のPCで確認でき、試験データはインターネット経由で即時に受信できる為、開発スピードが飛躍的に向上します。

2016年7月13日　日刊工業新聞掲載

第３種郵便物認可

神鋼造機が受託試験

トランスミッション　本社工場に専用施設

【岐阜】神鋼造機（岐阜県大垣市、米谷剛人社長、0584・89・3121）は、自動車用トランスミッションや関連部品の受託試験事業に乗り出した。本社工場の倉庫の一部を改修し、排気量4000ccクラスまでの乗用車用トランスミッションの効率や振動、温度変化が測定できる設備などを整えた。試験機事業の売り上げを2021年3月期に16年3月期比3割増の24億円に引き上げる計画。

専用施設「試験機テクニカルセンター」として開設した。床面積は600平方㍍。投資額は3億円で、トランスミッションのほか、関連の歯車やクラッチ、潤滑油なども試験できる。同事業に営業2人、技術1人の計3人の担当者を配置した。

試験データはインターネット経由で顧客に即時に送信でき、ウェブカメラで試験映像も提供する。顧客は開発品の品質検証時間を短縮でき、開発スピードを上げられる。

トランスミッション関連の受託試験はすでに欧州では普及している。神鋼造機は試験機の製造・販売で国内シェア6割（同社調べ）をもち、装置も手がける優位性を打ち出して受託試験に乗り出す。一貫したサポート体制により、将来の試験機購入が見込める中小サプライヤーも開拓する。

神鋼造機の試験機事業の売り上げは16年3月期で18億円で、トランスミッション関連が8割を占める。トランスミッションは動力伝達装置として車両の燃費に深く関わるため、企業間の開発競争が激化しており、緻密で信頼性の高い評価試験が求められている。神鋼造機は自動車メーカーや部品メーカーの試験ニーズを新たな試験機開発にも役立てる方針。

受託試験事業のため専用スペースを設け、幅広い顧客の要望に対応できる自社開発試験機を配置